

## 心とからだ健康で 何事にも進んで取り組む こどもの育成

シリーズ5号では、「健康な心」についての解説をいたしました。今号では、「何事にも進んで取り組む」という意味を具体的に説明していきます！「芦野小学校グランドデザイン（HPにあり）」でも説明していますが、更にくわしく説明をしていきます。

「進んで」とは、「自ら（みずから）」という意味合いがあります。つまり、自分で決めるという「自己決定」の生き方がそこにあります。

### ～ 何事にも進んで取り組むとは？ ～

「進んで取り組む」のポイントに、『自己決定・自己責任』と『解決志向』をあげています。

『自己決定・自己責任』とは、自分で決める、そして、その結果を受け止めるという生き方です。「それだとうまくいかないから〇〇の方がいいんじゃない」と親が答えを決めてしまうとどうなるか？うまくいっても親の手柄になり、うまくいかなかったら親のせいになります。自分の手元には何も残りません。自己決定・自己責任の生き方をしないまましていると、自分で決めることが怖くなります。うまくいかないリスクを背負う勇気がなくなります。社会性とは、傷つくリスクを背負う勇気を持って始めて身につきます。この勇気が身につかずに育つと思春期になる頃には、自分で決めることができなくなります。親に何か聞かれても「別に・・・」「普通・・・」「分からない・・・」の3通りに絞られていき、現実と向き合う勇気がくじかれて、責任を他者に求めたり妄想の中で生きていく術しか残らなくなります。

『解決志向』とは、解決の方法を探す生き方です。うまくいかない時にあれこれと原因を探すのは「問題解決」の生き方です。原因は、探せばいくつでも見つかります。できない自分を認めるのは辛いことなので、「できない理由」を探して「仕方がない」と物語を作りがちです。「既にうまくいっていること、うまくいったこと」を『例外』といいます。うまくいっていないと思っている事柄の中にも例外は必ずあります。進んで取り組むとは、常に「例外」を探してそれを増やす取り組みのことです。

自己効力感（今はできなくても、頑張ればいずれできるようになる）と思える力は、解決志向の生き方で爆上がりします。できない原因に関心を寄せるのか、例外に関心を寄せるのか。どちらを選ぶかは自分で決めます。

「自己決定の生き方」を身につけさせたかったら「君はどうしたいの？」と質問することです。答えを言いたくなくても我慢して聴くのです。答えたら「そうなるためにどんなことができる？」と質問します。なるべく複数の方法を出させます。そして、「次に同じ場面になったらどの方法を選ぶ？」と質問します。自己決定ができない子には、3つの「提案」をして選ばせます。この自己選択（選ぶ勇気）をしながら自己決定（決める勇気）をする生き方に進めていきます。